

1-1 背景と目的

今後の人口減少社会や高齢化社会の到来、さらには市民ニーズの多様化などに対応するため、従来の人口増加に伴う拡大を前提とした都市構造から、高齢者から子どもまですべての世代が集い、暮らすことができる機能が集約された利便性の高い都市構造への転換が求められている。

特に、春日井市の中心的な拠点であり、重要な交通結節点でもあるJR春日井駅周辺においては、市民からも30万人都市の顔としてふさわしい整備が求められているとともに、市民の生活利便性の向上のためにも、多様な都市機能の集約または、既存公益施設等への移動の円滑化が必要となっている。春日井市ではこれらの理由から、平成18年度にJR春日井駅をはじめ、市内主要4駅周辺の地区に関する将来のまちづくりの方向性をまとめた「春日井市都市交流拠点将来ビジョン」を策定した。その中でも、JR春日井駅周辺は、都市基盤整備から時間が経過していること、駅舎および周辺のバリアフリー化が進んでいないこと、駅周辺の空洞化が進んでいることなどから早急に事業化を検討していくことと位置づけられている。

また、国も従来の交通バリアフリー法とハートビル法を統合した「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」を平成18年に施行し、バリアフリー化に対する重要性、緊急性がますます高まっている。

これらの背景をもとに、JR春日井駅周辺におけるまちづくりの一環として、バリアフリー化を実現するために、この基本構想を策定する。

1-2 基本構想策定の流れ

